

平成26年度図工科の授業改善のための方針

1 平成25年度の成果と課題（成果☆、課題●）

☆様々な教材を扱い、楽しみながら創作し、創り出すことの楽しみは持てた。

☆それぞれの教材に対して、必要な基本的技術の理解・定着が図れた。

●作品を掘り下げてしっかりと創り出すための時間や指導が足りなかった。

●作業時間確保のために後片付け・清掃等の時間が足りなかった。児童を育てるという面では、作業の時間との兼ね合いも考えてきちんと指導していきたい。

2 今年度の児童の実態

・昨年度にくらべ作業する時と話を聞く時の切り替えに時間ができてきた。

・一度で聞きとれない児童もいるので、板書の工夫をするなど工夫をする。

・絵を描かせてみると自信がなさそうだったり、色をつけると自分の思い描いていたものとの距離を感じ投げやりになってしまう児童もいる。単純に「きれいな絵」が良いと思いつまみせず自分のできる表現で楽しく描いていけるよう作品鑑賞などを通して固定観念を外していく必要を感じる。

・自分の気持ちを解放して作品に表現することがさらに必要と思われる。

3 本年度の方策

① 授業中の指導

- ・「図工が好き」な児童を育てる。そのために興味・関心を持って取り組める教材の精選につとめる。
- ・他律ではなく自律できるような判断力を養う。自分の目を見て、自分の頭で考えて、自分の手で創り出す。
- ・図工科で育てようとする資質や能力を具体的に育成するような言語活動の充実を工夫していく。

② 全校での指導

- ・教師や友達の発言を尊重して聞く姿勢を育てる。
- ・忘れ物や言葉遣い・聞く姿勢・発言の仕方等、全職員で協調して取り組み、泉の伝統としての良さを持続させ、失わないように努める。
- ・クラス内や家庭での児童を取り巻く環境の理解に努め、一人一人の児童が自尊心を持てるよう努める。

4 学年毎の重点目標

学年	重点目標
1年	・まずとりかかろうとする力、作り上げる力を育てる一人一人の実態に合わせた支援を行う。
2年	・造形遊びなど失敗を恐れず、楽しみながら作る経験を積み重ね発想・構想の能力をつける。
3年	・材料と触れ合う時間を設定する。
4年	・鑑賞と声掛けを通して様々な表現を認める力をつける。
5年	・小さな目標を設定するなどして技術指導を丁寧に行い技術を身につける。
6年	・グループでの活動や、感想の交流などを通して互いを認め合い多様な表現を楽しむ力を付ける。